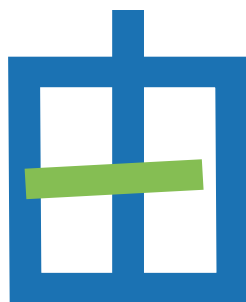




医療法人社団
友和会広報誌
[フリーダム]



「自由・責任・活動 そして大切に思う心」

2023.August

VOL.
1



Photo by Tomonori Kaneko

変わった病院・・・・・・・・・・2

訪問看護「ゆうわ」・・・・・・・・・・3

友和病院 ある日の作業療法／友和の自然

理事長、かく語りき。「壊せ壁、架けよ橋!」・・・・・・・・・・4

栄養給食科より 嗜好調査を行いました・・・・・・・・5

廿日市エリアより／デイケア叶え／串戸心療クリニック・・・・・・・・6



医療法人社団 友和会
yuwa medical corporation



HP



Instagram

「変わった病院」



友和会に入職して間もなく、他病院のPSW(精神保健福祉士)からこう言われたことがあります。「昔の友和は凄かった。でも、法律が友和に追い付き、今や他の病院に追い越された」と。

私が友和病院の存在を知ったのは、当時、勤めていた病院の先輩から、「西に変わった病院がある」と聞かされたのがきっかけでした。2001年、新病棟が完成した際、先輩と友和病院を見学させてもらいました。私は2か所の精神科病院で勤務した経験がありましたが、友和病院はそれまで自分が見てきた精神科病院とは明らかに異質の存在でした。――①ライターは喫煙者が自己管理、②売店でノンアルコールビールを販売、③看護師が白衣を着ておらず、職員と患者さんの見分けがつかない――先輩から聞いた「変わった病院」の噂を確信すると同時に、昼休憩にギターを弾く人がいたり、一番見晴らしの良い場所に閉鎖ユニットや保護室がある等、自由で開放的な雰囲気がとても魅力的に見えました。

2003年4月、とあるご縁でその「変わった病院」で働く機会に恵まれました。入職後も驚きの経験は続き、先述した①②③に加え、病室でのAV鑑賞が黙認されていたこと、保護室内で患者さんと一緒に紫煙をくゆらせながら話を伺ったこと、患者さんから「PSWとは…」

とお叱りを受け続けたこと等々、昨日のことのように鮮明に思い出されます。

時は流れ、「変わった病院」と揶揄された友和病院の売店からノンアルコールビールは消え、病棟は禁煙、看護師は白衣を着用、AV鑑賞は禁止になりました。「変わった病院」は「変わった病院」ではなくなってしまうましたが、入職以来、自分を支えてきたものの一つがこの「変わった病院」の精神(友和会の基本理念「自由・責任・活動そして大切に思う心」)でした。私がかつて「変わった病院」と揶揄されたと感じたことは、実は友和病院に対する評価の裏返しであり、冒頭の他病院のPSWのご発言も、「もっと頑張れ！」という、叱咤激励だったのだと今は受け止めています。

設立45周年を迎えた今年、友和病院は病院機能評価の受審に向けて準備が進んでいます。「変えなければいけないこと、変えてはいけないこと」をしっかりと見極め、「患者さん」と呼ばれる人生の先輩方から伺った「ホンマに変わつるのは他の病院よ」の真意を問い続けながら、今後も日々の業務に臨みたいと思います。

(エスペランサ管理者・宮地秀樹)

左上写真・新病棟グランドオープンセレモニーのジャズライブを鑑賞する患者さんご家族、関係者など。

- 友和会まっぷ -

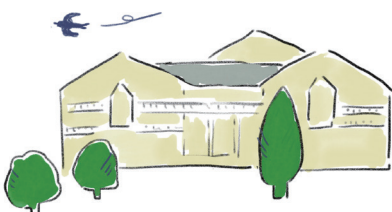
医療法人社団友和会には、旧佐伯町エリアと、廿日市エリアに、7つの事業所があります。今後も誌面に様々な部署を紹介していく予定です。

- 共同生活援助事業所エスペランサ
- 相談支援事業所エスペランサ



旧佐伯町エリア

- 友和病院
- 訪問看護ステーション「ゆうわ」



廿日市エリア

- 串戸心療クリニック
- デイケア叶え
- 訪問看護ステーション 和み



「ずっとここで暮らしたい」思いをサポート

訪問看護ステーション「ゆうわ」



「気づく・考える・行動する」をモットーに、優しく心強い仲間8名と、野越え山越え走り回り、地域医療に寄り添っています。

大雪の日にはふもとの道路まで四駆車でご家族がお迎えに来て下さったり、畑で青菜が出来れば食べて欲しいのだと、親類のように接して下さる家族など、病院内では経験できない、幅広く素晴らしい人生体験をさせて頂いています。「あなたが来るのが楽しみなのよ」と頼りにして頂き、地域の方々と家族のように泣き笑い励まし合う日々です。



利用者さんは精神障害・身体障害・重度医療をはじめ、認知症・看取り・透析・人工呼吸器など急性期・慢性期を含め、病と共にご自宅で生活されて

いる方々100名。廿日市市街地から吉和、大竹市、佐伯区湯来まで多い日には200km走行する日もあります。



高齢独居老人の増加や山間部特有の不便さもあり、医療・看護業務だけでなく、家事や買い物援助、受診やお薬の受け取り・お届けなど、多様な相談を承り、その人らしい生活をサポートしています。アロマナーズによるアロマオイルマッサージも好評で「体が楽になる」と週3回受けている方もおられます。

どうぞお気軽にステーションへお立ち寄り下さい。新規スタッフも絶賛募集中です！



ご利用者様ご家族様よりお便りを頂戴しましたのでご紹介させていただきます。

訪問看護ステーション
ゆうわ様

父がこの世を去り、1週間が経ちました。皆さんは元気にそして忙しく患者さんのお宅を訪問されていることと思います。

短い間でしたが、父と私たち家族が共に過ごせた最期の時間を温かくそして楽しく支えてくださりありがとうございました。父だけでなく私もゆうわの皆さんと話すことで張り詰めていた気持ちも解けていき楽しく父を看ることができました。

父の最後は意志のある命の幕引きで、穏やかに旅立っていかしました。葬儀も自宅で仏壇を使い、オーダーメイドの棺、花は畑の花といたった手作りの式を身内だけでごちんまりと執り行いました。そして最後はLINEで見送りました。

これから夏本番になりますがお体にはおきをつけて、患者さんとその家族を支えてください。訪問はとても立派なお仕事です。

令和5年7月

梅雨の夕方に

ひぐらしを聞きながら



友和の自然 ①



「ツバメ」

友和病院には毎年春になるとツバメがたくさんやって来ます。グループホームのペランダのツバメマンションも風物詩。フンがちょっと・・・ですが入居者さんもお心が広いわけてして・・・夏が過ぎるまで、見上げれば忙しく飛び回るツバメたちが賑やかです。



作業療法の創作活動で、6月の季節の飾りを患者さんと作成しました。皆で談笑しながらだと、楽しく作業も進みます。完成作品は、病棟ホールの天井に飾りました。見ていた患者さんからも「ええねえ」とお褒めのコメントを頂きました。季節を感じられるって良いですね。

(友和病院OT・藤高)

友和病院 ある日の作業療法

「壊せ壁、架けよ橋！」—開院10年目の頃



ジョン・レノンのアルバムに“Walls and bridges”と言うのがある。邦題は「心の壁、愛の橋」となっていた。

このタイトルを下敷きにした、「壊せ壁、架けよ橋！」というスローガンが、開院10周年を記念して職員から募集した、友和病院が目指す方向を現す標語の、最優秀作だった。

友和病院は1978年3月、「自由、責任、活動」を基本理念に掲げて出発した。10年目の1988年は精神保健法が施行された年である。基本理念を体現する病院運営に日々努力してきた10年目にして、このスローガンが必要なくらい、世間にも我々自身の中にもある分厚い「壁」を、意識せざるを得ない現実がその当時はあったのである。

友和病院の開設当時、統合失調症はまだ「精神分裂病」と呼ばれていた。今でもこの病名にはぞっとするような響きがあるが、当時この病名は烙印（ステイグマ）そのものであった。精神分裂病者は、何をするか分からない危険な人、無能力者、社会から隔離すべき人、とみられており、患者さん自身はもとより家族の皆さんも、その病気がかかっていることをひた隠しにする傾向が強かった。医療者も、精神分裂病という診断名を避け、「幻覚妄想状態」とか「精神衰徳状態」などの状態象や、「病的心因反応」などという、医学書にない病名を使ったりしていた。私は何故か医学生時代からこの精神分裂病に関心があり、医学部を卒業して何

を専攻するかを決める際、迷わず精神神経学教室を選んだ。そして、より多くの精神分裂病の患者さんと触れたくて大学の医局は1年でおいとまし、国立療養所賀茂病院に勤務した。ここでの経験から、精神分裂病の患者さんが世間で言われるように、或いは専門医でさえ言うように、「訳の分からない人」ではないと知った。

彼らは中心のところでは「まとも」であり、そう思っただけで付き合うと、より「まとも」に振る舞ってくれるのである。例えば被害妄想的で怒っぽいAさんは保護室の常連であったが、私が担当するようになり気が合って、保護室から連れ出して一緒に散歩したりするうち興奮は見られなくなり、退院した。退院後は一緒に就職の面接に行つてなんとか採用になった。私から見ても、驚くべき変化であった。半年後再発して又戻って来たが、如何に重症と見える人も変わりうる、と言うことを経験させてもらった。このあたりのこととを、恐らく日本最高の精神分裂病の治療者であった中井久夫先生は、精神病患者との付き合いに不可欠のこととして、「彼らの中にあるまともさを信頼すること」を挙げ、「そうあってほしいと願うだけでも良い」と言っている。

そのような経験が原点となって、「自由、責任、活動」を旗印にすることになり、それなりの成果も見られたが、道なお遠しと感じさせる10年目頃であったのだらうと思う。（理事長・末田格）

左上写真：恒例春のお花見にて 1980年代

【 掘り出し友和辞典 】

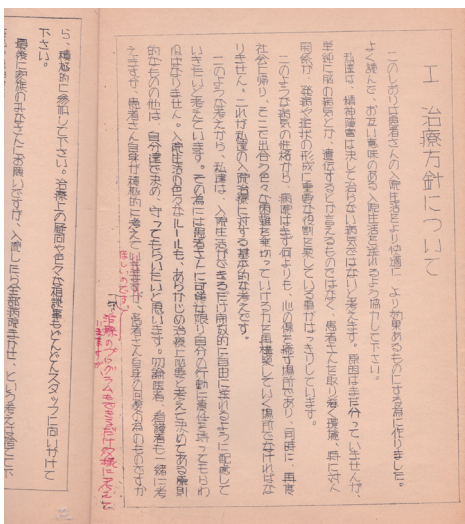
「責任とは？」

当院の理念「自由・責任・活動 そして大切に思う心」の、「責任」とは誰のどんな責任なのでしょう。それは職員の患者さんに対する責任・・・だけ、ではなく、患者さん自らの行動に対する責任でもありました。



▲ 1978年開院当初の入院案内草案。ガリ板刷り。表紙の絵は患者さんによるもの。

◀ その内容「・・・私達は、入院生活が出来るだけ開放的に自由に送れるように配慮して行きたいと考えています。その為には患者さんに可能な限り自分の行動に責任を持ってもらわねばなりません。入院生活の色々なルールも、あらかじめ治療上必要と考えてある原則的なもの他は、自分達できめ、守ってもらいたいと思います。」

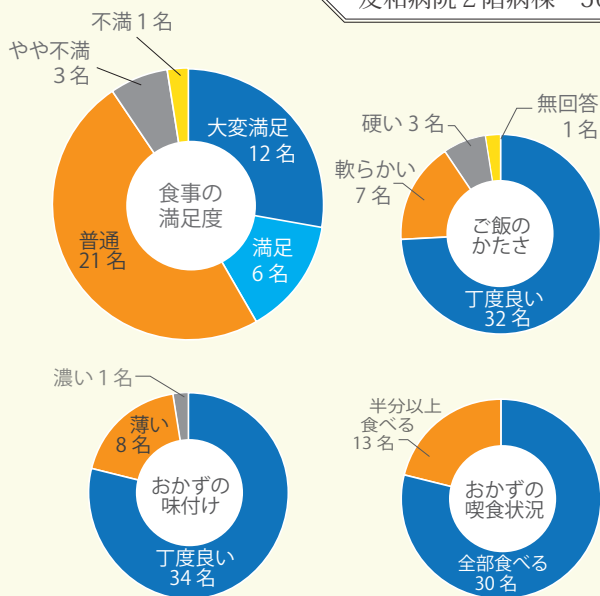


嗜好調査を行いました。

友和病院では、嗜好調査を年に1回実施しています。嗜好調査をすることにより、食事に対する意見や喫食状況を把握し、より良い食事の提供を目指しています。嗜好調査の内容として、「食欲はあるか」、「主食について（喫食状況、硬さ、温度）」、「おかずについて（喫食状況、温度、味付け）」、「残す理由」、「好きなメニュー」、「おやつについて（おやつは食べているか、どんなおやつを食べているか）」、「食事の満足度」、その他食事に関する意見の聞き取りを行いました。

令和5年5月 嗜好調査結果報告

友和病院2階病棟 56名中43名にご回答いただきました。



好きなメニューランキング

ラーメン	11名	お好み焼き	2名
カレーライス	11名	チキンライス	2名
麺類	7名	そば	2名
パン	4名	刺身	2名
焼きそば	4名	味噌汁	2名
うどん	4名		
肉	3名	ラーメンと	
チャーハン	3名	カレーライスが	
おはぎ	3名	同率1位!!	



▲ ランキングに載っているものの他にも、沢山のメニューをお答え頂きました！

高田管理栄養士より

嗜好調査の結果、食事の満足度は普通が21名と一番多く、次いで大変満足が12名で多く、患者さんの多くは食事に満足されているという結果になりました。

一方で、やや不満6名、大変不満1名と食事に不満を持っている方もおられました。

これまでも、患者さんの食事に関してのリクエストには、出来るだけお応えしていますが、引き続き患者さんの要望を聞き、食事に反映して、食事の満足度の向上に努めていきたいと思えます。

ここが自慢！
「野菜とお米は地産地消！」

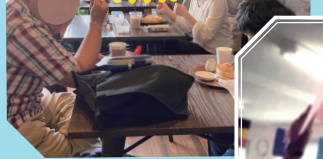


▲ 右の写真は山本農園の山本さんです。山本さんの持っているこの白菜は10kgあります！とても重い！左の写真は採れたての小松菜です。無農薬なので虫食いも多いですが、美味しい証拠です。そのほか、お米も地産地消で、新鮮なものを給食に使っています。



▲ 今回の調査結果を病棟に掲示しました。また、食事に関する意見箱を病棟に設置し、患者さんの要望を出来るだけ反映し、患者さん一人一人に合った食事を提供するようにしています。

運動会やハロウィンパーティー、近所のオムニバスコースターズコーヒーでまったりなど楽しい時間も



廿日市エリアより

精神科デイケア かな 叶えです!

お花見に出かけましたあ!



室内運動会 ▲



素敵な新聞バッグ



▲ハロウィンでの女装なかなかイケてます(スタッフです)

叶えは2016年1月13日、串戸心療クリニック開院と同時に始まった日中活動の場所です。

現在は20代～80代の幅広い世代の方々が通われています。

「叶え」にはデイケアに通われる方々の夢が少しずつでも叶えられる場所になれば…そんな願いが込められています。

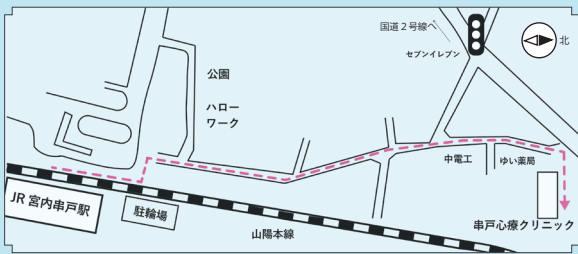
市街地という利便性の良さもあり、近隣の商業施設や公共施設へのお出かけ、ドライブ等の外出は世代を問わず人気のプログラムです。最近では新聞バッグ作り(道の駅での販売、商業施設へ無償提供)や木工といった創作活動も盛んで、コロナ禍で一時休止していたカラオケや調理・お菓子作りも再開し、少しずつコロナ禍前の状態に戻りつつあります。その他、季節毎のイベントや就労準備プログラム等も開催しています。

見学・体験利用も随時受付しておりますので、まずはお問合せください!

住所:住所:廿日市市串戸4丁目2-16 ☎(0829)30-6014
診療時間(完全予約制):
○午前の部 9:00-12:00(受付 11:30まで)
○午後の部 15:00-18:00(受付 17:30まで)
祝祭日休診 日曜日が祝祭日の場合は診療、翌月曜日を休診。
※初診の予約につきまして、数週間程度お待ちいただく場合がございます。なお、友和病院の外来にも当院医師が在籍しておりますので、お気軽にご相談ください。



詳細はこちら▶



donna toko?

医療法人社団友和会

串戸心療クリニック

駅から徒歩6分。土日も診察しています。

今年度から女性の精神科医も加わりました。

串戸心療クリニックは、「障害をもつ人もそうでない人も、誰もが孤立することなく地域で支え合って生きていけるような治癒共同体の実現」への足がかりとして、多機能型精神科診療所を目標に開設され、2階に精神科デイケアを併設しています。またクリニックでは、祝日以外は毎日、午前の部・午後の部ともに営業しており(木曜日は内科のみ)、在籍医師は5名、精神科・内科には女性医師も勤務しています。お悩みの全てを共に考え、抛り所となるよう勤めています。

新任 D:高山由華子先生より

はじめまして。この度串戸心療クリニックにて勤務させていただきます。大きく運びとなりました、高山と申します。

これまで、愛媛県にて精神科医療に従事してきました。総合病院から急性期単科精神病院にて、統合失調症や双極性感情障害、認知症、不安障害や適応障害やうつ、また度々児童の診療もしてきました。急性期から慢性期まで幅広く精神医療に関わっております。

こちらの病は様々ですが、男性の先生に相談しにくいこともぜひ気軽に相談ください。広島は初めてですが、地域に根差した医療を提供して参りたいと思います。

ぜひ気軽にご相談ください



↑高山先生、とある週末の1枚

／編／集／後／記／

友和会広報誌を刊行するにあたり、タイトルを「自由」としました。ところで自由とは?子どもが通った幼稚園の園長先生が自由についてこう書いておられました。「自由とは、自らに由る、自分に従うということ。では自分の何に従うのか。欲望でしょうか、自分勝手に生きることか。それは良心でしょう。自由とは、自らの良心に従い、良く生きようとする。そしてそれは修羅の道のように厳しい。」と。そして友和病院の基本理念の筆頭にはまさに「自由」があります。人間を人間たらしめ、清々しく優しく、たくましい言葉だと思っております。

表紙写真:金子智範(相談支援事業所エスベランサ)

編集:九津見晴(法人本部)